

赤潮調査事業（毒化モニタリング調査）<sup>※1</sup>竹内照文・小久保友義・今原幸光<sup>※2</sup>

## 目 的

貝類の毒化状況と毒化原因プランクトンである *Alexandrium* 属、*Dinophysis fortii* や *D. acuminata* の出現状況について調査し、貝類の毒化状況を把握するとともに、将来の貝毒監視体制の確立を図る。  
なお、詳細は「平成元年度赤潮防止対策事業（毒化モニタリング）報告書」に報告されている。

## 方 法

和歌浦湾（アサリ）、芳養湾（ヒオウギ）田辺湾（アサリ）と串本浅海漁場（ヒオウギ）で P S P（4 5回）や D S P（5回）の検査とともに *Alexandrium* 属や *Dinophysis* 属の出現状況について調査した。

## 結 果

1. 和歌浦湾、芳養湾と串本浅海漁場では、ヒオウギとアサリの P S P が規制値を越えることがなかった。*A. catenella*、*D. fortii* や *D. acuminata* は、 $10^4$  cells.  $l^{-1}$  以下で推移し、高密度に出現することがなかった。
2. 田辺湾では、*A. catenella* が2月から出現し始め、4月から5月にはコンスタントに検出されたが、 $10^4$  cells.  $l^{-1}$  以上に増殖することがなかった。夏季の高水温期には検出されなかったが、9月下旬から再びコンスタントに出現し始めた。*D. fortii* と *D. acuminata* は、4月上旬から増殖し始め、4月下旬にピークを示したが、 $10^4$  cells.  $l^{-1}$  以下であった。アサリの P S P と D S P はすべて N D であった。

---

※1 赤潮調査事業費による。

※2 水産課